

県立大学関係の一般質問（という形の意見表明です）

『問題への取り組みの方向』

今、県立工科大学の意味、位置づけを我が事としてとらえて、主体的に行動してゆくことが問われています。

私たちは、今まで、誰かが「学校を設置してくれること」ありきで話を進めてきた感があります。その上で、学校を作るならこうしてほしい、ああしてほしい、こうであってほしい、などと。

そうではなく、奈良をこうしたい、日本をこうしたい、そのために大学が必要なのかどうか、といった根本の議論が必要と考えますが、町長はいかがお考えでしょうか？

『県立工科大学のニーズ』

これからの日本の再建に「教育」は大変重要なものです。

「教育にお金がかかる」「教育機会の不平等」も大きな問題ですが、根本的に教育制度がかえる問題は何か？ 私は、「教育の制度が時代のニーズに合わなくなってきていること」だと思っています。

世の中は、変化がめまぐるしく、ひととおりの教育を受けて、成人して職につけば、生涯その職で社会に貢献できるような状態ではありません。会社でも自営業でも数年単位で変革が求められています。つまり、人生は、学んで働いて、また学びなおして働いて、という時代になってきているということです。

しかしながら、日本の教育制度は、学びなおしを重視したものになっていない。大半の大学が、高校の延長線上にあり、学びなおしの場としては活用しにくい状況にあります。

一方で、高等技術専門校のような、リスクリングの場もありますが、完全に大学とは別物になっている。

ここで、大和平野中央に大学を作ることにより、リカレント教育を通して教育の根本的な問題に取り組むという社会的価値を実践するものと思っています。町長はどのように思われますか？

『リカレント、スタートアップ、そしてまちづくり』

大学は広域でという話もありますが、県立だからこそ、思い切ったことが出来る。就学期間の生活保障なんかも考えても良い。スタートアップ人材への優遇もあって良いと思う。社会貢献に直結した学びなおしの場をつくり、奈良を大阪のベッドタウンだけでない、一つの特色ある地方都市とすることが出来ると思います。町長はどのように思われますか？

『教育の多様性と産業振興』

学びなおしの場としての大学が設置されることで、小中高の教育も変わってゆくと思っています。

今、日本の教育は、大学に向かっての一本道の教育とされています。小さいころから何ごともソツなくこなしてゆける子が選別され、有名校を経て有名大学に入り、官僚や大企業に入ってゆく。暗に画一化を求める事で子どもたちの自由な成長を阻害しているとも言われています。

人にはそれぞれ特徴があります。例えば、一つのことにこだわりを持ち考え込むようなタイプの子は、今の教育のルールには乗りにくい。遅咲きだが大きな才能を開花させるような子の多くは、社会の先端の開発事業に乗るのはむずかしい現状があります。

この先、日本がふたたび世界の中で先端技術を担ってゆくためには、人ひとりがそれぞれ活かされるしくみを作ってゆくことがより重要になってくると考えられます。

それにつながる道として、リカレント教育を全面に据えた県立工科大学があるのです。

すなわち、本大学は子供たちの個性を伸ばし、日本の産業の発展に寄与するものと考えます。町長はどのように思われますか？

『政策決定の方法』

一方で、県知事は、「工学部は既にある」、「磯城郡は他県から人を呼ぶには不便」、と言います。

推測するに、奈良市や生駒市にお住まいで、現在の学校教育制度の下で、それなりに社会的に成功を収め、奈良の魅力は大阪への利便性ととらえる一定数の方の意見を代表しているように感じます。 目指す大学は既存の大学で良く、奈良はベッドタウンとしてあれば良いと。これは、奈良県全体の意思では無いことを認識する必要があります。

また、費用対効果といった一面でとらえると、高校無償化や大学無償化のほうが大学設置より利があると出るのかもしれませんが。教育にお金がかかりすぎる問題は、それはそれで問題で解決してゆく必要があると思います。

しかし、本当に目指す社会への一歩を考えた場合、どちらに利があるのか、どちらかを選ばねばならないのかは議論すべき問題だと思います。 町長はどう思われますか？